



FIAT FESTA 2013 20 ANNIVERSARIO

梅雨の晴れ間の週末に、水上高原に集まったイタリア車の数々。会場となる宝台樹スキー場の駐車場には、のべ600台以上が集まった。雪が降るやまなみを遠くに、愛車と共に過ごす休日。今回は初の試みとなるトロフエオ・ラリーに参戦したレポートをお届けしよう。

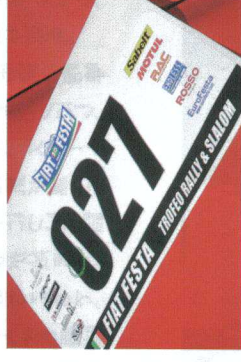
文●西山美彦 text by NISHIYAMA Yoramiko
写真●和田清志 photos by WADA Kiyoshi

回目を迎えるフィアット・フェスタに、 新たな風となるトロフエオ・ラリーが加わった

今年で20回目の節目となるフィアットフェスタが、群馬県水上高原の宝台樹スキー場で開催された。20回目の今年初めての試みとして、会場をスタートとして3時間はどてこるるミニラリー「トロフエオ・ラリー」がプログラムに組み込まれた。編集部からは小生西山が、ボナンシアのデモカーであるフィアット328GTSでこのラリーに参戦。参加者として見たフィアットフェスタの模様をレポートしよう。

まさしく梅雨の晴れ間と呼ぶに相応しい快晴の水上高原。実走行1万3000kmほどの328GTSのルーフを開けてラリーに参加したが、直射日光はチリチリと肌を刺す強さだった。ラリーは、雑誌でも参戦取材させてもらったことのあるスーパーカー・ラリーの主催者であるナスクの運営。高原の木陰のもと、気持ちよく走らせることができるルートが用意されていた。トロフエオ・ラリーに参加した人の多くが、この手のラリーイベントには初参加。線踏みと呼ばれるタイム計測や、ルート途中で設けられたスペシャルステージ、そしてシークレットクイズなど、悪戦苦闘しながらも楽しんでいた模様だ。こうしたミニラリーを経て、ヒストリックカーラリーのような大舞台に興味を持って頂けると嬉しい。

ゴール後は、別会場で行われているジムカーナ競技であるトロフエオ・スラムを観戦しながらランチ。多くのROSSO読者とも交流することができ、充実した休日であった。ぜひと

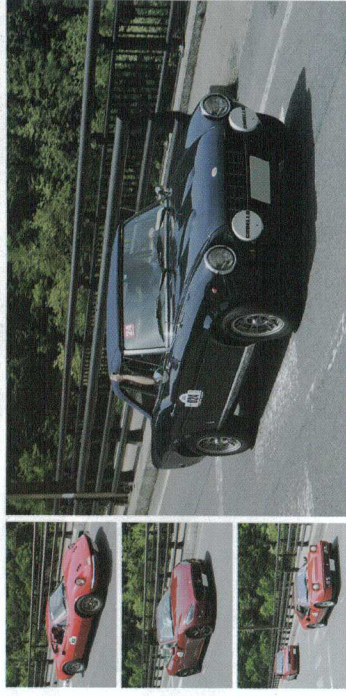


328GTSのセッケンは「027」。ラリーには34台がエントリー。



登場したROSSOガール。移動している間中、を作っている様子。

Torofeo Rally



フィアット124スパイダーやディーノ246GTといった70年代の車両だけでなく、マセラティ・グランカブリオ・スポーツなどのコンテナラリーな車両など多種多様なイタリア車が、ラリーイベントに参加。



初めてラリーに参加するオーナーの人には、線踏みの難技は車のコントロールなど苦戦していたようだ。排気量など関係なく、どんな車両でも優勝できる可能性のあるタイム計測は誰でも楽しめる。

Trofeo Slalom



フィアットX1/9の参加が多かったトロフエオ・ラリー。上位入賞車もX1/9が占めた。

トロフエオ・ラリー、トロフエオ・スラムと共に、表彰式ではチャンピオンファイ。



ラリー前半は、同じくブラックの328GTSとランデブー。タイム計測の待ち時間には、ROSSOガールのパソルで非常に助けられた。



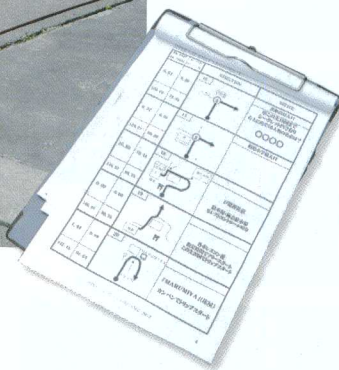
会場スペースには、プロショップによる出展や、クラブのオフ会などが催され、賑わっていた。

毎回人気のフリーマーケット。クルマだけでなくリア関連のレアなアイテムが多数。

SUPERCAR RALLY CHALLENGE

クラシックカーから現代のスーパーカーまで、誰でも気軽に参加できるラリー競技イベントとして人気を呼んでいる「スーパーカーラリーチャレンジ」。さる5月12日(日) その第2戦目となる軽井沢ステージが開催された。

文●坂本憲俊 写真●高松 弘
text by SAKAMOTO Noritoshi
photos by TAKAMATSU Hiroshi



ツーリング感覚で参加でき、誰でも楽しめるラリー競技

スーパーカーラリーチャレンジは、ラリー競技を気軽に経験してもらおうということで企画されたイベントである。ルールの厳しいJAF戦と違い、気軽に参加できることが人気の理由だが、計測やレイアウト、マナー等は本格そのもの。ツーリング感覚で楽しめる部分と、ラリー競技特有の頭を使つて楽しむ部分を上手く両立させているのは、本イベントならでは。

高速道路も利用し、およそ180kmの行程となる、今回の軽井沢ステージには、新旧24台ものスポーツカーが集まった。ラリー競技はコマ図に従い、各チェックポイントを回りながらゴールを目指す訳だが、実質の競技となるのはシークレット問題と、指定区間を指定タイムで走行するPC競技で、その結果により順位が決まる。PC競技以外の区間は、法定速度の80%で走行しても十分余裕のあるスケジュールとなっているので、無理に急ぐ必要がなく安全が担保されている。本イベントがツーリング感覚で楽しめるのは、風光明媚なルートを走るというだけでなく、そんな理由もある。ただ、普通のツーリングと違うのは、コマ図に基づいて走るとのこと。実際にやってみると、コマ図を読み解き路上の目標物を見つけることの達成感もあるし、また、どこに連れて行かれるんだろうというワクワク感もあって、思った以上に楽しいのである。

当イベントは、本格的なクラシックカーラリーの入門として最適というだけでなく、普通のツーリングは飽きたという諸兄にもお勧めしたい。一見単純なPC競技も奥が深く簡単には行かないから、ハマること請け合いだ。Ⓜ



午後は飯綱スキー場でPC競技を開催。ドライバーとナビゲーターの息が合わないと上手くいかない。



さしたるトラブルやアクシデントもなく、全車ゴールに到着。

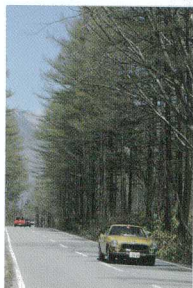
2台体制で参加したポテンシャルチームは、ボルボの佐藤氏と山田氏のペアが見事3位入賞!!



昼食休憩となる戸隠に到着したラリー御一行。ランチとして用意されていたのは名物の手打ちそば。



戸隠高原を気持ちよく疾走するのは、ボルボP1800E。



FIAT124 スパイダーを駆るのは、輸入中古車販売で知られるポテンシャルの山元社長と大井事務のコンビ。



今回は、ラリードライバーの篠塚健次郎選手がバストスカラーのE30M3でゲスト参加。